

【授業の極意】 【教育保育5班】

岡山県立高梁高等学校 2年次 石井康太 小池柊太 木口桃花

1.背景・目的

進路として教員を視野に入れている

→自分たちが教員になるときに役立つような内容の活動をして、将来の役に立てたい！



2.実験・調査

○アンケートの実施

市内の小中学校にアンケートを行う。
結果を考察し結果と照らし合わせより良い授業とは何かを考える。

○職員研究会への参加 授業見学、実施の相談

○インタビュー

高梁小学校で勤務している先生へ授業内での工夫、意識していることなどを聞く→次の調査や活動の参考に

○学習サポート教室

小学生を対象に夏休みに行き、実際に算数や社会、外国語などを教えた。

○夏休みに宇治小、宇治高校合同職員研究会への参加

非認知能力※についてのお話を聞く。

授業見学、実施のお願い

※非認知能力とは？

テストの成績や偏差値、IQ(知能指数)などの数値化できるものではなく、コミュニケーション能力や好奇心、誠実さなど数値で表すことができない能力のことを指す。近年重要視されてきている。



3.結果

○アンケート

【生徒用】

- ・好きな授業活動→「**新しいことを学ぶ**」を選んだ人が一番多い
- ・好きな授業形態→「**グループ活動が多い授業**」と答えた人が一番多い
- ・嫌いな授業活動→「**難しい問題(応用問題)を解く**」を選んだ人が一番多い
- ・嫌いな授業形態→「**発表回数が多い授業**」と答えた人はかなり多い

【教員用】

生徒がわかりやすいと思う授業にするための工夫

- ・**授業の導入**を工夫する(小テストを行う、日常生活の話題と結び付ける)
- ・**実物や写真**などを使って生徒がイメージを持ちやすくする。

生徒が楽しいと思う授業にするための工夫

- ・クイズやゲーム形式にして、**実際に体験**して学ぶ機会を作る。
- ・**グループ活動**を増やす。

○インタビュー

- ・身近なことから授業内容に結び付ける
- ・既習事項ができていないか**学習前に確認**する

○学習サポート教室

「自分たちには当然のことでも小学生には知らないことだった」という事があった。小学生と自分たちの知識の差を考えて教える必要がある。実際に教えることで良かった点、もっとよくできた点を見つけ授業をする際に活かす。

○宇治・職員研究会

岡山県教育委員会でも育てたい4つの非認知能力「**夢育**」がある。今岡山県で熱い！！
授業見学後、授業実施については宇治小、宇治高校の校長先生に許可をいただくことができた。



4.アンケートの考察

【生徒用アンケートから】

・わかりやすい授業にするために「**視覚的なサポートや工夫**をする」と答えた先生が多かったことなどから
新しいことを授業で取り扱う時：**説明→最小限 タブレット等→普段より多く活用**
するとわかりやすく、楽しくできるのではないかと

→「授業で新しいことを学ぶのが好き」と答えかつ「タブレット等を多く活用する授業が好き」と答えた人の割合を調査

小学生→国語、算数、英語とすべて50%台だった
中学生→国語、数学が20%代、英語は30%台だった

- ・中学生は割合が低く、**タブレットを活用すればどの年代でも必ず楽しい授業になるわけではない**
- ・「**視覚的なサポートをすること**」と「**タブレット等を多く活用すること**」は大きく結びつかない

【教員用アンケートから】

・**授業の導入**を工夫する(小テストを行う、日常生活の話題と結び付ける)と答えた先生が圧倒的に多かったため**大切なことだと感じた**。

しかし、アンケートの項目に導入に触れた質問がなく、生徒の意見は聞いていない

⇒再度アンケートを行う際は導入に関する項目を入れてみたい。

- ・楽しい授業にするために「**グループ体を動かす活動を増やす**」と答えた先生が多く実際、「**グループ活動が多い授業**」が好きと答えた生徒が多かったため、**先生の考えと生徒のニーズが合致していると考えられる**。

5.結論と展望

- ①**授業の導入がとても大切。**
 - ・既習事項の確認
 - ・身近なことと学習内容をつなげる

②**実際に体験させる授業にする**
→楽しみながら学習ができる。

③**実際のものを用意するなどしてイメージを持ちやすくする。**

④**生徒の学習内容への理解度を把握し、教え方を工夫する。**

⇒これらを踏まえ意識し、**宇治小学校で授業を実際に行っていきたい**